

式 辞

六甲の峰々が新緑の輝きを増し、さわやかな風が甲山を吹き抜ける今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校第 41 回入学式を挙行できますことは、本校にとって、この上ない喜びです。

新型コロナウイルスもようやく収束の兆しをみせはじめ、日本中が通常の教育活動の実施に向けて動いている中、本日は PTA 会長小澤様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り、令和 5 年度の兵庫県立甲山高等学校第 41 回入学式を挙行できますことに、本校の教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました 150 名の皆さん、入学おめでとうございます。今日から皆さんは、西宮甲山高校 41 回生として本校で学ぶことになりました。本校は「森の学校だからできることがある」「小さな学校にしかできないことがある」のスローガンの下、自然豊かな環境を生かして、様々な教育活動を展開しています。

皆さんは、本日から「甲高生」としての新たな歩みを始めることとなりました。皆さんを迎える本校では、校訓として基「己を究め ふれあいのなかに 明日を拓く」を礎にして教育活動を行っています。入学するにあたりその基に沿って皆さんに私から伝えたいことを 3 点お話しします。

まず 1 つは「己を究める」です。高校は義務教育ではありません。ですがまだ社会人でもありません。これまでと異なり、自分で判断し行動する場面が多くなり、自己の責任が重くなります。だからこそ、己を究めることは大切です。自己で責任を取ることができ、大人として正しく振る舞えるように自己を磨いてください。そのためには、自分の考えや行動が正しいのか振り返ることが大切です。時には、他者の考え方や言動も参考にすることも必要です。正解は一つとは限りません。自分だけが正しいということは滅多にありません。自分も正しいけれど、他人も正しいということが多いです。もちろん自分が間違っていることもあります。間違いに気づくことを恥ずかしいと思わず、自分を責めず、間違った後にどうするかを考えてください。

2 つ目は、より多くの人との「ふれあいのなかに」自分をおいてほしいのです。高校には当然いろんな人がいます。気の合う人、合わない人がいます。時には何気ない一言や行動で自分が傷ついたり、逆に他人を傷つけてしまったりすることもあります。人と人とのふれあいの中では避けて通れず、このことは高校後も同じです。まず、人を傷つけないようにするにはどうしたらいいか。他人を尊重し、自分と異なる意見や考え方を中傷したりしないで理解することです。時には、他人の意見や考え方で、自分の意見や考え方を修正することも必要です。もちろん、必要なときは自分の意見や考え方を伝えることも大切です。そして、他者を傷つけてしまった場合、自身が傷ついた時はどうすればいいか。一緒に考えましょう。

時間がかかるかもしれませんが、必ず解決に向けての糸口が見つかります。高校生活を送る中で、傷つけ合うことを恐れずに、ふれあってください。もし万一傷つくことがあれば、その時は復元力を信じてください。苦しいときは誰かに相談してください。決して一人でいる必要はありません。苦しみは一人で抱えるより、複数で抱える方が楽になります。きっと乗り越えられます。ふれあいを大切にするということは、他者を尊重することであり、傷つくことを恐れない自分を育てることであり、そして自分を大切にするということでもあるのです。

3 つめは自らの力で「明日を拓く」ことです。

今、社会では疫病や戦争、大規模災害が発生し、これからの時代はいつ何が起こるか予測が不可能とされています。このような時代だからこそ、人々の多様性を尊重し、命を大切にし、柔軟な思考力と対応力で困難を乗り越っていく力が求められています。皆さんには、本校での学びによって、どのような災いが起こっても、そこから生まれる課題を自らの力で解決し、他者を尊重して協力しながら、新しい世の中を作る力をつけてもらいたいと考えます。

入学生の皆さん、皆さんには校訓のごとく、「己を究め」「より多くの人とふれあい」「自ら明日を拓く」人になってもらいたいのです。自らを律し責任ある行動をとり、他者を敬う心を大切にすることで多くの仲間と囲まれながら、何事にも前向きに取り組み、既成概念にとらわれない新たなものを創り出していけば、皆さんの無限の可能性は大きく開くことでしょう。皆さんのこれからに大いに期待しています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。さて、高校生活 3 年間という時間の中ではいろいろなことがあります。楽しい、面白いということだけでなく、時には悩み苦しみ、時には叱られて家で愚痴を言う、などということがもしかしたらあるかもしれません。しかし、そうした経験に立ち向かい考えることで人は成長していきます。特に多感な高校生の時期はなおさらです。どうかそんな時には、子どもたちの話をじっくり聞いてあげてください。そして寄り添ってあげてください。多くの場合、子どもは人に聞いてもらえば、気持ちが落ち着きます。そこで大人がそれは大変だと大きく反応してしまうと、生徒も余計悩んでしまうものです。子どもたちが主体的に自身の力で問題を解決する能力をつけてもらいたいのです。しかし、もし心配なこと不安なことがあれば、いつでも学校までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、本校で大きく成長し、社会で輝き活躍できる人材となることを祈念し、式辞といたします。

令和 5 年 4 月 10 日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 田中 優至